

4年2組

 わたしたちの住む地域  
～戸隠から見つめる長野市～


## 附属小学校は、子どもたちの希望が叶えられる学校だから

4月に「戸隠のことを勉強したい」とA君がパンフレットを持ってきてくれました。今年の総合的な学習の時間で戸隠の地質化石博物館について学びたいとのこと。「附属小学校は、子どもたちの希望が叶えられる学校だから」と話を続けてくれました。ちょうど同じ時期、休み時間に理科室で『石を割る』という過ごし方をしている子どもたちがいました。家で拾ってきた石を割って、中の様子を見ることに夢中でした。

授業では、1年生からの総合的な学習の内容を子どもたちとふりかえりました。これまで、ピザ作りもヤギの飼育をしてきた子どもたち。お互いの活動の軌跡を知る中で、細かくは知らなかったこともありました。「始めからピザを作ろうって話じゃなかったんだね。」「どうしてヤギを飼おうってなったの?」と始まりの話になり、「うんとね・・・」「それはね・・・」と話し出す中でどちらのクラスにも“キッカケ”があったということがわかりました。そして、両クラスに“キッカケ”を与えてくれた子が偶然にもクラスにそろっていることに驚きました。今回のA君の戸隠の話もひとつのキッカケです。クラスで長野市の地勢図を見て思いを寄せてきました。



## 戸隠ってどんなところか まず行ってみたい

戸隠の学習が始まって、はじめは長野市の地図を子どもたちと見始めました。「結構近いね。」「すごく山の中にあるんだね。」「行ったことある!」など子どもによって感じ方はバラバラでした。

「戸隠ってどんなところなのかな。私は行ったことがないから、まず行ってみたい。それで、どんなことができるか知りたい」とBさんが言いました。この言葉は、戸隠という未知の場所を想像するだけだった子どもたちにとって勇気を与える言葉でした。

戸隠地質化石博物館の館長先生から、戸隠で採れた鉍石や、カブトムシの幼虫を分けいただきました。「小学校にいても戸隠を感じてほしい。」という館長先生の気持ちを聞きました。教室には鉍石を見るための顕微鏡が設置され、カブトムシを見守る生活へ変化してきました。

戸隠からいただいたカブトムシという「いのち」。日々の様子を楽しみに過ごしている子どもがいました。幼虫からサナギへ成長した時の嬉しさはすさまじかったです。「揺らしちゃだめだよ!」「静かにしてないと」「部屋が崩れないようにして!」「暗いのが好きらしいから、ガムテープで隠すね」と言いながら、休み時間になるとチラリとガムテープを剥がしてソッと様子を見ていました。毎日持ち帰っていた子が、ある時を境に持ち帰りを辞めました。どうしてか聞いてみると、「寂しいけど、成虫になってほしいし、少しの振動も与えたくないから」とのこと。心は目の前の「いのち」に向けられていました。サナギから成虫へ羽化した時の感動もクラスみんなで共有できました。授業中に羽化が始まると、「羽化してる!」と、授業そっこのけで集まっていました。

6月、いよいよ戸隠見学へ。天気にも恵まれて、戸隠の爽やかな風を



感じながら一日活動してきました。魅力いっぱいの戸隠。午前中は化石を見ることのできる地層を観察したり、石を割ったり、鉱石を拾ったりと活動に没頭しました。昼食のためにバスへ移動する際には、後ろ髪をひかれるように何度も地面にしゃがみこんで足元に落ちている石を観察している姿がありました。活動前には目もくれなかったなんてことのない砂利道。それが、帰る頃にはまるで宝の道へと変わっていました。



今は、6月の戸隠見学をふりかえり、2回目の学習に向けて計画を立てています。子どもたちはまだまだ活動したい！知りたい！できるようになりたい！という気持ちでいっぱいです。戸隠を流れる裾花川の水生生物を観察したり、水質について追究したりしたいとのことです。「水質に目を向けることは環境問題に目を向けること」と話す子がいれば、それに「SDGsだ」と応じる子もいました。

また、館長先生みたいに石を見分けることができるようになりたいと願う子もいました。6月の見学では2時間ほど化石や鉱物を夢中に探していた子どもたち。戸隠の魅力にしっかりと心をつかまれています。

「戸隠はどうして忍者に関係する場所が多いんだろう？」とCさんがつぶやいていました。歴史へも目を向ける“キッカケ”になりそうです。